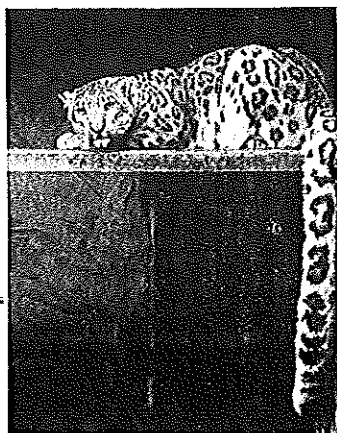




ユキヒョウ



救いを待つ動物たち—35

Animals Waiting for Salvation (35)

Snow Leopard

by K. Asai, Higashiyama Zoo, Nagoya City.

浅井 健

名古屋市東山動植物園のユキヒョウ

☆“ネコ科の女王”

これは、ユキヒョウにたてまつられる称号です。よく見ればそんな気もしてきますね。

雪のように白いというほどではありませんが、灰白色の背部に散らばるヒョウ独特の斑紋は大きく、梅花模様です。毛はたいへん深く、とくに頸部から胸、腹にかけては10cmもあり、ふさふさした柔毛につつまれています。ヒョウより小型ですが、体長にも匹敵するこのユキヒョウ特有の長い尾はネコ科動物中一番を誇っています。体のわりに小さい頭、口先が短く、鼻は比較的大きく、額が高くつきでいる点がヒョウとちがいます。

☆高山の狩人

ユキヒョウはカシミール、中央アジア、チベットなどの高地に分布していて、季節的な雪線の移動に従って夏は高い所に、冬は低い所に移動します。ヒマラヤでは夏は4300mまで登り、冬は2000mぐらいの所にいるとのこと。

木の少ない、ひらけた地域を好み、岩の多いきびしい環境に住んでいます。夜行性で、林間は岩かげにひそみ、アイベックス、ジャコウジカ、ウサギや齧歯類、鳥類などを襲います。冬、食物が少なくなると山村に出没し、家畜を襲うことも稀にあるといわれています。

☆美しい毛皮があだ

暖かそうな毛でおおわれ、曲線で形づくられ

た輪郭は「一度はこんな毛皮を身につけたい」と、女性を誘惑にかきたてる美しさです。

毛皮のすばらしさがあだとなって乱獲され、そのうえ単独生活の習性から異性との出会いも限られるため、出生率も低く、見る見る数が減少してしまいました。生息地が山また山の高地のため、野生でのくわしい生息数はわかりませんが、200頭~400頭と推測されます。IUCN(国際自然保護連盟)の指定した国際保護動物のひとつです。

☆飼育下での現状

現在、世界の動物園では52園で167頭が飼育されています(国際動物園年鑑第18巻)。

日本では東山動植物園(名古屋)に1頭(メス・6歳)が飼育されているだけです。

飼育下での実態を把握し、繁殖をよりよくするため、フィンランドのヘルシンキ動物園がユキヒョウの国際登録をおこなっています。アメリカでは繁殖のために、動物園間でユキヒョウの貸出し移動もさかんにおこなわれています。同年鑑によれば、1976年には世界で25頭の子供が生まれたと報告されています。生息地での生活環境がきびしく繁殖がむずかしいのでユキヒョウを絶やさないためにも、飼育下での繁殖はたいせつです。

ユキヒョウの寿命は15年ほどです。東山の“女王”にも、はやくよい相手をと努力しなければなりません。

(名古屋市東山動植物園 動物園長)